

圓の人は、

猫の子、子猫名はおすゞ

おすゞやおすゞ 靜かに行つて鼠取れ

と歌つて、歌ひ終ると猫は鼠を追ひかける。圓の人は鼠がうまく逃げられる様ふさいだり通してやつたりしてゐる。つかまると次の人と變る。時々圓の人が猫を通したりするとそれ大變、鼠は大あわてです。

これは二三の遊びに過ぎませんが、お砂場に、ぶらんこに、すべり臺と、子供達は駈けまはり、偉大なる自然の中に、此好き季節を樂しみたいものであります。

## 遊 戲

### 古 澤 靜 子

五月。緑したゝる青葉若葉に初夏の陽光がそゞがれ、そよ風に藤の花がゆらぐ。菖蒲の花も開きました。勝利の日本をよるこび、輝かしい前途を持つ男の子を祝つて、青空高く鯉のぼりが泳いで居ります。

窓を開きませう。

若葉の香りは、微風と共に、子供達のほゞのあたりに漂ひます。

駈けた後、歌つた後、しつとりと汗ばんだ後の心地よさを感じてゐるのはこの頃でせう。スキップの愉快を味ひ、音と共に限られた時間内に限られた運動をする事の合理的な面白さを、或はお

互ひに連手して他と同じく前進後退することの難しさを體得はじめるのもこの頃でありませう。

前月は、團體訓練への第一歩として、極く基礎的動作より成る、二三の遊戯を致しました。五月と申しましたが、まだ日も淺い一月後でありまして、前月に依つてすつかり基礎が、出来る筈のものでも御座いませんで、この月も前月の延長と考へまして、是等の基本的な動きの上に、更に枝葉を伸ばしてゆき度いと思ひます。即ち部分的な動作より全身的なものへ、直線より曲線へ、又個々の動作に就きましても、單的な表現より、稍々複雑な表現のものへと進み度いと思ひます。然し勿論、前月のものを基といたしました上に、展開するものでありますから、四月の繋りとして、漸次的進行をはかりたいと思ひます。

あなたのまね(日本幼稚園協會發行「遊戯の歌と曲」所載)

全生、圓形を作り、指導者を一人圓内に入れ、その指導者の動作表現を全生が眞似するのです。

「一小節—四小節まで」全生、圓の左又は右をむき曲に合はせて歩きます。圓内の指導者は皆と反對の方向に歩きます。

「五小節—八小節まで」そのまゝスキップで繼續します。

「九小節」一拍目の音で皆、止まり、圓内の指導者は、そこで自由な表現をし、次の二拍目は、皆休止。三拍目に全生は圓内の者が行つたと同様の表現を行います。

はじめは、先生に指導者となつて圓内に入つていたゞきませう。之は瞬間的にその場で行ふ表現でありますから、簡單なもの

でよいのです。例へば、

両手を舉げて萬歳。丸くしてお月様。指を伸ばして擧手の敬禮。掌を下に向け、両手を上に舉げて、びよんと一つ跳べば兎さん。同様に肘を曲げて跳べば、ポチ。と言ふ工合に、様々な面白い表現が出来るものです。

### ものまね(日本幼稚園協會發行「遊戯の歌と曲」所載)

「あなたのまね」と同様、全生圓形を作り、指導者を一人圓内に入れ、その指導者の動作をまね、或は指導者の命じる動作を全生が行ふもので、「あなたのまね」の瞬間の表現に對し、繼續的に動作を行ふものであります。

「一小節—九小節まで」全生圓の左又は右を向いて歩きます。圓内の指導者は全生と反對の方向に。(指導者が動作をしないで、たと命令をずる際は、歩かないで、立つてゐても結構です)

「十小節—十四小節まで」圓内の指導者が好きな動作を行ひ、全生その通りにいたします。馴れた後は、指導者は、口で動作の指名をするのみにいたします。

こゝでいたしますのも、最初は、上肢下肢のみで行ふ簡單なものより次第に全身的な複雑なものへ變化させることに致しませう。例へば、右手で擧手の敬禮を行ひつゝ、特に歩調をとつて歩くとか、兎になつた場合は、そのまゝ、兩足を揃へて圓にそつて跳ぶ。小鳥になつて両手を横に擴げ、同様にして跳ぶ。

しやがんで両手を前につき、てんとう蟲になつて歩くことも出来ます。或は優しい風がよそ〜と……足踏みしながら両手を上に舉げて左右に振ります。一、二、一、二のかけ聲に合せて、

お舟漕ぎの練習も出来ませう。

この様に「あなたのまね」で致しましたその場での動作を、「ものまね」では連續的にするもので、何れの際にも致しませうことは、自然界の中より、又可愛らしい動物の運動を、或は人工的な物真似等、實に様々の表現動作が出来、それに伴つて多くの想像的興味を呼び起すものでありませうが、どんな小さな動作も、單に臂の上げ下ろしにとゞまらず、例へば萬歳にいたしましたも、天を突き抜く程、高く元氣よく擧手する事に依り、必然的に胸廓の擴張、姿勢の端正が、伴はざるを得ないのでありますし、兎になつて跳ぶ場合、両手を永く舉げてゐる事は相當に努力を要する事であると共に、跳躍力を養ふことになりませう。この様に、その興味を通して、個々の動作に含まれる何等かの價值を見出し度いと思ひます。

尚、「あなたのまね」や「ものまね」で行ふ運動は他の一連の遊戯の際、困難と思はれる様々の動作の練習として取扱ふ事も出来ませう。

てんとう蟲(日本幼稚園協會發行「最新作曲幼稚園唱歌集」所載)圓形でも自由な隊形でもよろしう御座います。圓形の場合は、圓周にそつて歩きます。一節より三節まで同じ動作であります。「てんとう蟲は皆さん可愛らしい小さいてんとう蟲になつて、うづくまりませう。

「てんとう蟲は四つんばひになつて一呼間に一歩づつ、前方に歩きます。

「赤い服」同様にしてこそ〜と成るべく早く前進します。

「黒い卸が黠々々」四つんばひになつたまゝ、二呼間に一回づゝ飛んで進みます。

てんとう蟲ですから、體を丸くしたまゝ、從つて膝を曲げたまゝで飛んでみませう。あまり元氣よくはねると、ポチになりそうです。

いも蟲(昭和十六年十月「幼児教育」参照)

時計屋の時計(昭和十六年十二月「幼児の教育」参照)

ポートルース(日本幼稚園協會發行「遊戯の歌と曲」所載)

ポートル競争の始まる時節になりました。約十人一組として、一列縦隊に並び、前の者に、兩足がどゞく位の間隔を保つて、前方に兩足を出して腰を下します。先頭の一人は、リーダーとして反對に皆の方を向いて坐ります。

權を持ち、曲に合せて二呼間に一回づゝ體を前方に曲げて、兩臂を前方に伸ばし次の二呼間、兩臂を體前に引寄せながら、上體を起します。つまり、四呼間に一度オールを漕ぐわけです。次の四呼間では、一度漕いだ後の兩手を上に舉げて萬歳を致します。最後までこの動作を繰返します。

先頭に坐つてゐるリーダーは全生と同様に舟を漕ぎますが、全生が萬歳をする時、口に兩手をあてゝ、元氣をつける爲の言葉を發します。「しつかり!!」と言ふやうに。

その前に、審判官を一人選び、全列の前に立たせて「用意」「始め」の合圖をさせ、曲が終つた時に、どの舟が勝ちか、審判をしていただきます。

各列共、それ／＼のポートル乗組員を編制するのでありますが、

各員共、權をしつかり握り、出来るだけ上體を曲げて、他の人々に合せ、十人が、よく揃つて漕ぐやう。他の方に遅れたり、反對の方向に漕ぎ出したりしない様、注意いたしませう。審判官の審判には絶體服従。但し審判官は公平な審判をしなければなりません。

たんぼ(日本幼稚園協會發行「幼稚園唱歌選集」所載)

圓形を作り、圓心に近く集つて居ります。「たんぼ」が咲いた」稍く上體を曲げて前かゞみになり、拍手をしながら四歩後退して大圓に開きます。

足もとに綺麗なたんぼ」が咲いて居ります。「たんぼ」の花は黄色なお花」兩手を舉げて兩掌の指を開いて合せ、顔前で花の形を保ちつゝ各自の廻りを一廻り。大きなお花です、御自分のお花を見て御覽なさい。

「たんぼ」のわたげ」兩掌を並べ、顔の前に保つて、稍く前かゞみになり、兩掌の上のせたわたげを、吹く様にして駆足で圓心に入ります。わたげは御存知でせうね、綿の様に白くて、ふわふわ飛び出すのを。お顔を近づけ、そつと吹いて遠くへ飛ばしませう。

「風が吹くと」兩手を上に舉げ左右に振ります。高くあげて御覽なさい。優しい風です。

「ふわ／＼」兩手を下しながら、駆足で圓心に入り、前にかがんで兩手を牀につけます。

わたげを追つて飛ばすのは、面白いものですね。夢中で駆け出し度くなるのですが、あまり勇しく駆けては、柔かいわたげは踏

みつぶされてしまひますから、優しい風になつて、そつと吹いて下さい。

動的な動きを、靜的な中に表現するのは、大きな力と努力を要します。

#### 鯉のぼり(日本幼稚園協會發行「幼稚園唱歌選集」所載)

「屋根より高い鯉のぼり」圓形になつて連手し、右傾上を眺めながら左に廻ります。

「大きな まごひ はお父様同様、反對に廻ります。

「小さい ひこひ は子供達」兩手をお互ひに肩にかけ、圓心に向つて六呼間進み、「子供達」の時に頭を左右に振ります。

「面白そうに泳いでる」掌を交互にかへして拍手しながら、歩いて後退します。高く上つた鯉のぼりを見上げながら。

#### エンソク(日本教育音楽協會發行「繪本唱歌春のまき」所載)

うらゝかな日に、先生やお友達と御一緒に皆さんの足は、郊外へ、山や丘へ、動物園へと向けられませうが、お遊戯室でもエンソクが出来るのです。では仲よく手を繋ぎませう。

「お日様にこゝ／＼日本晴」圓形になり連手して左の方に歩きます。

「今日は楽しい遠足よ」兩手を交叉して胸にとり、後にホップを四回しながら、各自の廻りを一廻りいたします。

「お手々つないで歩きませう」連手して右へ歩きます。

「唱歌を歌つて歩きませう」今日は楽しい遠足よ」と同じ動作。

「丘に着いたらお弁当食べ」掌を交互にかわして拍手しながら圓心に進み、「食へて」の時、その場にしゃがみます。

「お花をつんで遊びませう」左手を丸く曲げて籠を作り、右手で二呼間に一度づゝ花をつんで籠の中に入れます。

ホップと言ふ動作が始めて出て参りました。こゝでは、左右の足を交互に後に舉げて跳ぶのですが、最初は踏み出す足にアクセントをつけ、先生の手拍子或は特にアクセントをつけた楽器に依り、ゆつくり跳ぶ事から始めませう。後足は成るべく高く上つた方がよいわけですが、お膝が曲つても可愛いものでせう。

最後は圓心に入つて居りますから「お花をつんで遊びませう」の部分の後奏にして元の位置に戻ることいたします。

大體この様な遊戯に依り、次第に多種の動きへと展開して参りますが、すべての生活に於きまして團體的行動の強化が必要とされて居ります今日この頃、遊戯室に於きます遊戯の際の團體的精神は、それ等異つた生活部面に於ける團體性への礎となるものと思ひます。

それは勿論、個を無視して全體をたてると言ふものではなく、個そのもの、價値は充分尊重して伸展させねばならないものでありませう。従つて具體的な遊戯の際にも、同じ動作でありながら、各々、客觀的主觀的に表現態様は異なつて参りませう。が、何れも個性を生かした全體であり、その立場より、團體的取扱ひをしたいと考へるので御座います。